2016年度活動報告書　桑久保亮太

2016年は個人研究として点光源による影のプロジェクションを行うインスタレーションを発展させ、複数光源による多視点からの投影や、多色光源と立体物によるカラー影像の生成などを試みた作品制作を行った。

学外での活動（展示）

1　『光波：視覚』（gallery COEXIST-TOKYO、6/4~7/3）

untitled

莇貴彦氏が企画制作のグループ展にRGB光源による立体ピクセルのプロジェクション作品を出展した。
昨年度「車輪の再発明プロジェクト」で制作した「針穴をあけた紙を通したRGB光源による網点プロジェクション」を発展させ、紙に針穴を空けるのではなく、空間に立体物を置くことでカラーの映像を作っている。３つのターンテーブルは同期して回転するため、３つの立体物が３次元的に重ね合わされて色が合成される。

2　『クワクボリョウタ展―見ることを見る』（宇都宮美術館、7/31~9/4)

lost and found

宇都宮市主催の第11回エスペール賞（2013年）受賞に関連した展覧会に、「風景と映像」と「lost and found」の二作品を出品した。うち「風景と映像」は2016年2月の『恵比寿映像祭』で発表した作品の再展示であり、「lost and found」は2013年の『六甲ミーツ・アート』で発表した同タイトルの作品と2015年の『日常事変』（川口アートギャラリー・アトリア）で発表した「以心分身」を元にした新作である。後者は異なる位置と角度の光源を多数設置し、モチーフとなる物体や観覧者の身体の影を壁面に映すもので、ものや人の影が分断され接合されることで均一化する状況を生み出している。

3　『文化庁メディア芸術祭広島展』（旧日本銀行広島支店、8/13~9/2）

「10番目の感傷（点・線・面）」を展示した。

4　『Yinchuan Biennale』（銀川當代芸術館、9/10~12/18）

銀川當代芸術館 （Yinchuan Biennale 会場）

中国寧夏回族自治区銀川での初回のビエンナーレに参加し、「LOST#13」を展示した。
日本からの出品は筆者のみであった。アジア・中東各国からのアーティスト、とりわけイスラム圏のアーティストと対話する機会を得たことは貴重な経験であった。

5　『メディア芸術祭20周年企画展』（アーツ千代田3331、10/15~11/6）

第14回メディア芸術祭アート部門優秀賞作品「10番目の感傷（点・線・面）」と、第７回メディア芸術祭アート部門大賞作品「デジタルガジェット#6,8,9」の一部を展示した。

6　『奇想天外！　アートと教育の実験場　筑波大学〈総合造形〉展』（茨城県近代美術館、11/3~2017/1/29）

筆者の出身校である筑波大学芸術専門学群総合造形コースの回顧展に参加し、「10番目の感傷（点・線・面）」を展示した。

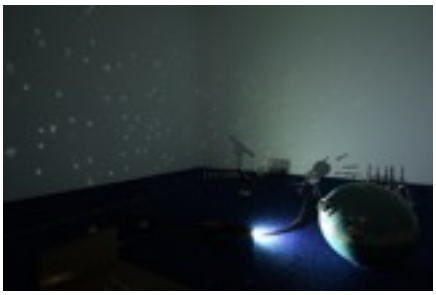
風景と映像

7　『Calculated　Imagination　IAMASが発信するメディアアート展』（ラフォーレミュージアム、3/10~16）

「風景と映像」を展示した。

8　遠野市宮守町道の駅での恒久展示（道の駅みやもり、4/29より公開）

「LOST#14（幻想の手法）」を恒久展示した。
宮沢賢治が「銀河鉄道の夜」を着想したという岩手軽便鉄道（現在のJR釜石線）の橋梁近くにある道の駅に展示室を設け、そこに作品を設置した。宮沢賢治の幻想世界はさまざまな形で二次創作されており、現在流通する賢治の作品世界はどこまでがオリジナルでどこからが二次的なものか判別が付き難い。今回「銀河鉄道の夜」創作の源となった実際の地域に作品を置くのであるから、二次的創作イメージの上塗りをするのではなく、この空間でなされた幻想がいかなるものだったのか、創作に対して逆方向に想像力を働かせるような作品構成ができないか試みた。



LOST #14